

PORT INC.

2026年3月期通期業績予想の修正に関する 補足説明資料

ポート株式会社 証券コード：7047

2026.2.16

2026年3月期 業績予想の修正(上方修正)

PORT INC.

来期以降の高い成長持続の為にオーガニックの計画比上振れ分を将来利益積み上げ等の成長投資に回しながら、HRteam連結開始や系統用蓄電所事業の黒字転換により期初計画から特に各利益で大幅な上方修正。

会計基準：IFRS (単位：百万円)	2026年3月期 通期業績予想			(参考)2025年3月期
	期初計画	修正後	YoY	通期実績
売上収益	28,000	29,000	+32%	21,963
EBITDA	4,400	5,300	+45%	3,652
営業利益	3,500	4,100	+37%	2,987
税引前当期利益	3,450	4,000	+36%	2,932
当期利益(非継続事業含む)	2,270	2,720	+45%	1,881
親会社の所有者に帰属する当期利益	2,270	2,670	+41%	1,887

重要KPI目標	将来利益	期初計画	修正後	将来利益込 EBITDA	期初計画	修正後
		2,810 百万円 (YoY+50%)	3,200 百万円 (YoY+71%)		7,210 百万円 (YoY+31%)	8,500 百万円 (YoY+54%)

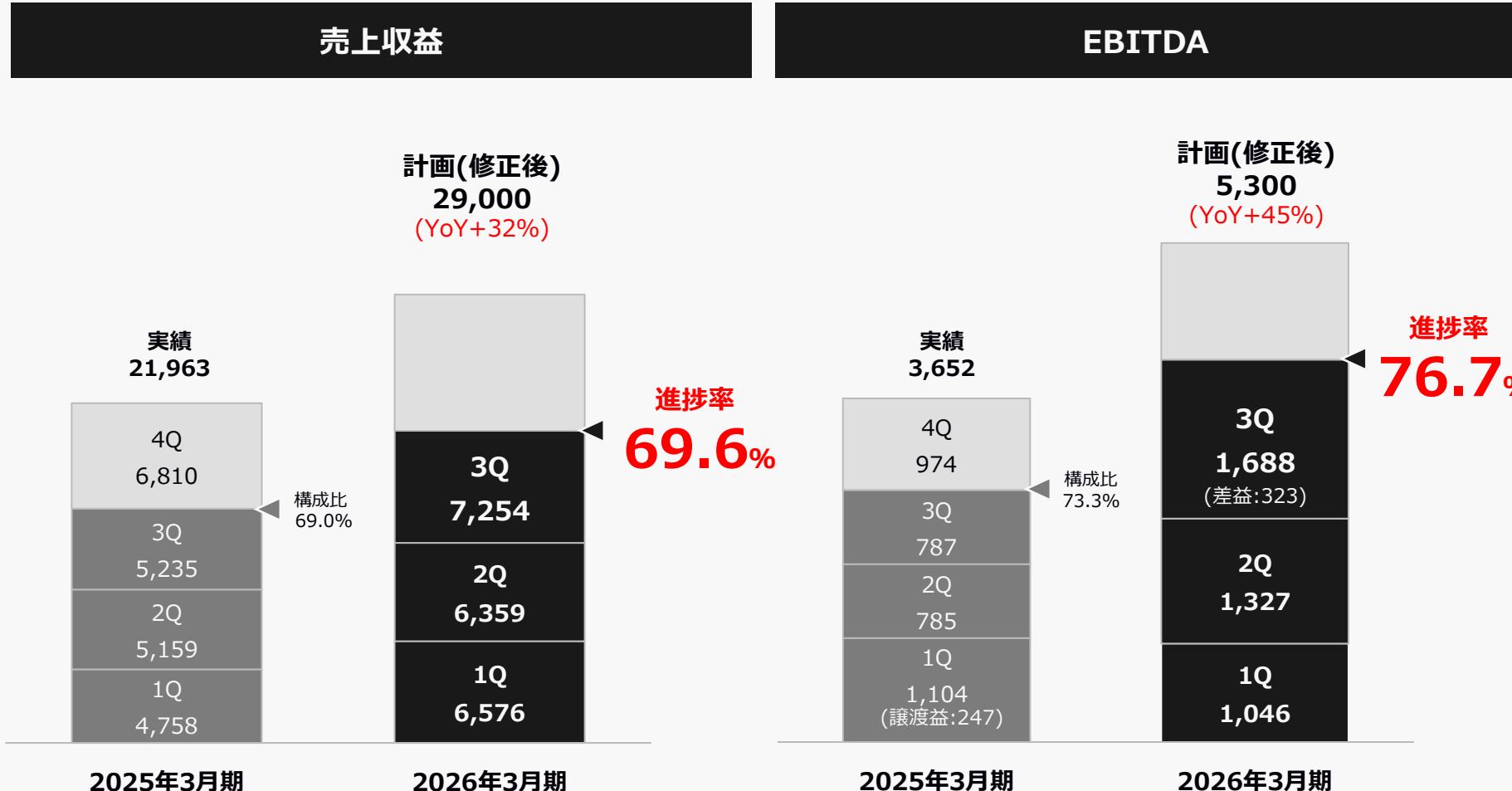
※ 将来利益=毎月のストック売上から、月次解約率、継続的にかかるコスト、割引率等を考慮し差し引き、エネルギー領域は5年間(60ヶ月)を上限、その他は妥当な期間で将来に渡って見込む収益として算出。

※ EBITDA=営業利益+減価償却費+固定資産除去損及び評価損益+株式報酬費用

※ 将来利益込EBITDA=将来利益+EBITDA

修正後計画に対して、4Qはエネルギー・人材領域ともに最需要期であることから順調な進捗。

(単位：百万円)



既存事業のオーガニック成長に加え、M&Aによる非連続な成長で当初予算を超過。来期以降の成長を見据えた戦略投資を織り込んだ上で、上方修正を実現。

01

既存事業の オーガニック成長

- エネルギー・人材領域におけるオーガニック成長の持続
- 将来利益の積み上げによるストック利益の順調な成長

02

HRteam連結化に によるインパクト

- HRteam連結化による売上収益及び利益貢献
- 段階的取得に伴う一時的な評価益の計上

03

系統用蓄電所の 通期黒字化

- 各蓄電所の安定稼働体制の構築
- 垂直立ち上げによる初年度からの通期黒字化の実現

04

来期を見据えた 戦略投資の実行

- ストック利益最大化のためのマーケティング投資
- 業務オペレーションの生産性向上に向けたシステム投資

両事業ともに4Qが最需要期。来期も高い成長持続に向けた、成長投資を大胆に実行。

大規模なマーケティング投資によるシェア拡大と将来利益積み上げによるストック利益拡充を優先

- 新規領域を含めて今期の将来利益28億円→32億円に上乗せ。来期以降も着実なストック利益拡充を見込む。
- 系統用蓄電所事業は今期黒字転換で、来期の更なる業績貢献インパクトを精査中。本格参入決定時には10件程度の追加投資を見込む。

新卒紹介で業界No.1の優位性活かし、良好な外部環境において圧倒的なNo.1を目指す

- 就職活動早期化で需要期となる4Qにおいても人材紹介の大幅増加を見込む。
- PORTに4月新卒約190名入社予定で半数程度を成約支援組織に配属し、オーガニックでも新卒紹介成長持続を見込む。
- HRteamのPMI本格化で顧客統合化、総成約件数最大化を活かした成約単価上昇によるグループシナジーを発揮。

将来見通しに関する注意事項

- ・ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。
- ・ これらは現在における見込み、予想及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ・ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

お問い合わせ先

ポート株式会社 財務IR部 IR担当

E-mail : ir@theport.jp

お問い合わせフォーム : <https://www.theport.jp/contact?purpose=ir>

PORT INC.

社会的負債を、次世代の可能性に。